



平成27年5月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年1月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 パソナグループ

コード番号 2168 URL <http://www.pasonagroup.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役グループ代表兼社長 (氏名) 南部 靖之

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 仲瀬 裕子

TEL 03-6734-0200

四半期報告書提出予定日 平成27年1月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年5月期第2四半期の連結業績(平成26年6月1日～平成26年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年5月期第2四半期	113,805	10.9	1,195	15.2	1,118	16.3	△155	—
26年5月期第2四半期	102,619	△0.3	1,038	45.3	961	38.8	△25	—

(注) 包括利益 27年5月期第2四半期 287百万円 (12.0%) 26年5月期第2四半期 257百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年5月期第2四半期	△4.22	—
26年5月期第2四半期	△0.67	—

(注) 平成25年12月1日をもって、当社株式を1株につき100株の割合で分割しております。1株当たり四半期純利益につきましては、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年5月期第2四半期	72,357	26,744	28.6
26年5月期	75,615	27,181	27.9

(参考) 自己資本 27年5月期第2四半期 20,673百万円 26年5月期 21,097百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年5月期	—	0.00	—	10.00	10.00
27年5月期	—	0.00	—	—	—
27年5月期(予想)	—	—	—	12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年5月期の連結業績予想(平成26年6月1日～平成27年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	232,000	11.2	3,550	10.6	3,550	13.2	600	14.0	16.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無
- (注) 詳細は、(添付資料)7ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年5月期2Q	41,690,300 株	26年5月期	41,690,300 株
② 期末自己株式数	27年5月期2Q	4,893,100 株	26年5月期	4,765,957 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年5月期2Q	36,838,886 株	26年5月期2Q	37,450,200 株

(注) 平成25年12月1日をもって、当社株式を1株につき100株の割合で分割しております。発行済株式数(普通株式)につきましては、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、(添付資料)6ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社は平成27年1月15日にアナリスト及び機関投資家向けの決算説明会を開催する予定です。説明会資料については、開催後速やかに当社ホームページ(<http://www.pasonagroup.co.jp/ir/>)に掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	7
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	7
(2) 追加情報	8
3. 四半期連結財務諸表	9
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
四半期連結損益計算書	11
四半期連結包括利益計算書	12
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	15
(継続企業の前提に関する注記)	15
(セグメント情報等)	15
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	16
(重要な後発事象)	16

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

①当第2四半期の経営成績

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、消費増税後の個人消費の不振や海外経済の下振れ懸念等により一部弱い動きも見られたものの、企業収益の改善は続いており、人材需要も高まっております。こうした環境のなか当社グループは、企業の事業環境に合わせたサービスメニューの拡充や、新しい働き方の提案に積極的に取り組み、「ソーシャルソリューションカンパニー」として教育・研修、保育、ヘルスケア、地域活性・農業分野にもサービス領域を拡大しております。

当四半期の業績については、エキスパートサービス（人材派遣）、インソーシング（委託・請負）、プレース&サーチ（人材紹介）など多くのセグメントで増収となり、売上高は113,805百万円（前年同期比10.9%増）となりました。尚、当期より連結納税に移行し、対象子会社の決算期を3月から5月に変更したことに伴い、当第2四半期連結累計期間において一部子会社が8ヶ月の変則決算となっております。

売上総利益については、プレース&サーチやエキスパートサービスの増収と、インソーシングの粗利率向上などが寄与し、22,461百万円（前年同期比15.7%増）となりました。販管費についてはM&Aや変則決算の影響に加え、既存事業拡大を見据えた人的投資等を行ったことから21,265百万円（前年同期比15.7%増）となりました。

その結果、営業利益は1,195百万円（前年同期比15.2%増）、経常利益は1,118百万円（前年同期比16.3%増）と増益となりました。四半期純損益については、決算期変更に伴い税金費用が一時的に増加したことにより、四半期純損失155百万円（前年同期は四半期純損失25百万円）と計画は上回ったものの、前年同期比では減益となりました。

■連結業績

	平成26年5月期 第2四半期(累計)	平成27年5月期 第2四半期(累計)	増減率
売上高	102,619百万円	113,805百万円	10.9%
営業利益	1,038百万円	1,195百万円	15.2%
経常利益	961百万円	1,118百万円	16.3%
四半期純損益	△25百万円	△155百万円	—

②事業別の状況（セグメント間取引消去前）

HRソリューション

エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)他

売上高 97,455百万円 営業利益 1,959百万円

[エキスパートサービス] 売上高 67,697百万円

景気改善や派遣需要の回復から幅広い業界で受注が増加したことに加えて、当期から医療関連人材サービスを提供する株式会社パソナメディカル（旧 株式会社メディカルアソシア）の寄与もあり、売上高は67,697百万円（前年同期比8.8%増）と増収となりました。当期は需要の高い専門職種の拡大に注力しておりますが、利便性の高いeラーニング講座の開発や外部の専門家と連携した教育プログラムも進め、派遣スタッフの更なるスキルアップの支援体制を強化しています。その結果、職種別ではITエンジニアリングが堅調に推移し、経理事務、貿易事務や外国語事務などのテクニカル分野が大幅に伸長しました。

[インソーシング] 売上高 22,362百万円

民間企業においては、委託効果が評価され、顧客内の他部署への横展開が増加しました。また、プロジェクトマネージャーの育成・教育や外部パートナーとの連携などによってサービス体制を強化した結果、BPR（ビジネス・プロセス・リエンジニアリング）やコンサルティング業務など受託領域が拡張しました。パブリック分野においては、女性の復職支援や介護人材の育成などの案件が増加したほか、自治体の行政事務代行の受託が大幅に増加しました。その結果、売上高は22,362百万円（前年同期比17.9%増）となりました。

また成長戦略の一環として、平成27年4月には総務業務のアウトソーシング事業を展開するパナソニックビジネスサービス株式会社を子会社化する予定です。同社のノウハウと当社グループのBPO事業の実績と人材供給力を活かし、グループの新しい事業の柱として更なる拡大を目指してまいります。

[HRコンサルティング、教育・研修他] 売上高 2,692百万円

グローバル化の進展に加えて、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催をふまえて訪日外国人の増加が想定されることから、国内外で「おもてなし研修」や外国語を使用する接客研修のニーズが高まり、「Jプレゼンスアカデミー」を運営するキャプラン株式会社で教育・研修の需要が増加しました。

また、キャプランが導入・コンサルティングを実施しているタレントマネジメントシステム（サクセスファクターズ）※についても、日系グローバル企業で人材の一元管理ニーズが高まっていることに加えて、グループ会社と連携した新規顧客開拓を推進したことにより、導入企業およびユーザーが増加しました。

結果、売上高は2,692百万円（前年同期比32.2%増）となりました。

※従業員のスキル・経験等の可視化と評価の一元管理を可能にして企業の人材活用・育成を支援するSAPグループのHRシステム

[プレース&サーチ(人材紹介)] 売上高 2,465百万円

企業からの求人は幅広い業種で増加基調が続きました。また今後、市場ニーズが高まると予想される女性の転職支援に特化した専門チームの発足やWebリニューアル、スマートフォン経由のエントリーを促進する施策などが奏功し、登録者が順調に増加したことが成約件数の増加につながりました。さらに、マネージャーやマネジメントクラスの紹介比率が高まったことにより、成約単価も上昇した結果、売上高は2,465百万円（前年同期比58.2%増）と大幅な増収となりました。

〔グローバルソーシング(海外人材サービス)〕 売上高 2,238百万円

北米やASEANにおける日系企業の人材需要は堅調に推移し、人員増強や現地のサービス体制の拡充も奏功し、人材派遣、人材紹介、アウトソーシングの全カテゴリで増収となりました。

人材紹介については、成約件数が増加したほか、マネジメント層の紹介にシフトしたことにより単価が上昇し、北米、中国、シンガポールを中心に伸ばしました。人材派遣では、営業を増員し、大手顧客の開拓が進んだことなどから、北米、台湾、インドなどで稼働者が増加しました。アウトソーシングでは、給与計算代行が増加したことに加えて、海外進出する企業に対して現地法人設立に関するコンサルティングやビザ取得支援などのサポートを開始するなど、サービス領域の拡張も進めました。

結果、売上高は2,238百万円（前年同期比30.1%増）と伸ばしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は97,455百万円（前年同期比12.7%増）となりました。エキスパートサービスをはじめセグメント内の全事業で増収となったほか、インソーシングの粗利率の向上もあって売上総利益が増加し、M&Aや変則決算の影響で増加した販管費を吸収し、営業利益は1,959百万円（前年同期比66.9%増）と大幅な増益となりました。

アウトプレースメント(再就職支援) 売上高 4,333百万円 営業利益 111百万円

景気回復により企業の雇用調整が大幅に減少し、受注水準が継続的に低下していることに加え、案件規模も小型化したことにより、売上高は4,333百万円（前年同期比23.2%減）となりました。引き続き、細やかなキャリアカウンセリングや新規求人開拓に注力し、再就職決定の早期化を進めた上、市場ニーズに合わせてコンサルタントや拠点の最適化に努めましたが、営業利益は111百万円（前年同期比86.0%減）と大幅な減益となりました。

アウトソーシング 売上高 9,935百万円 営業利益 1,188百万円

当社子会社で福利厚生のアウトソーシングサービスを手がける株式会社ベネフィット・ワンでは、福利厚生サービスを中心にサービスインフラを有効に活用しながら多角的に事業を展開すると共に、海外事業も積極的に推進しています。主力の福利厚生事業においては提案営業を積極的に行い、中堅・中小企業の開拓にも注力した結果、会員数は堅調に推移しました。また、取引先と協働で個人顧客向けサービスを展開するパーソナル事業においても会員が大幅に増加し、報奨金等をポイント化して管理・運営するインセンティブ事業も収益は堅調に推移しました。

その結果、売上高は9,935百万円（前年同期比5.3%増）、営業利益は1,188百万円（前年同期比23.0%増）となりました。

ライフソリューション、パブリックソリューション、シェアード

売上高 3,045百万円 営業損失 34百万円

ライフソリューションでは、保育関連事業を展開する株式会社パソナフォスターで大型保育施設の受託が増加し、介護関連事業の株式会社パソナライフケアにおいてデイサービス施設の新規オープンが続きました。当セグメントの売上高は3,045百万円（前年同期比19.5%増）と増収となり、利益面ではパソナライフケアの積極的な出店に伴う先行投資が膨らみ、営業損失34百万円（前年同期は営業利益8百万円）となりました。

消去又は全社 売上高 △964百万円 営業利益 △2,028百万円

グループ間取引および持株会社である株式会社パソナグループの販管費が含まれています。

■セグメント別業績

売上高

	平成26年5月期 第2四半期(累計)	平成27年5月期 第2四半期(累計)	増減率
HRソリューション	101,563百万円	111,724百万円	10.0%
エキスパートサービス(人材派遣) インソーシング(委託・請負)他	86,482百万円	97,455百万円	12.7%
エキスパートサービス(人材派遣)	62,198百万円	67,697百万円	8.8%
インソーシング(委託・請負)	18,967百万円	22,362百万円	17.9%
HRコンサルティング、教育・研修他	2,036百万円	2,692百万円	32.2%
プレース&サーチ(人材紹介)	1,558百万円	2,465百万円	58.2%
グローバルソーシング(海外人材サービス)	1,720百万円	2,238百万円	30.1%
アウトプレースメント(再就職支援)	5,644百万円	4,333百万円	△23.2%
アウトソーシング	9,436百万円	9,935百万円	5.3%
ライフソリューション パブリックソリューション シェアード	2,547百万円	3,045百万円	19.5%
消去又は全社	△1,492百万円	△964百万円	—
合計	102,619百万円	113,805百万円	10.9%

営業損益

	平成26年5月期 第2四半期(累計)	平成27年5月期 第2四半期(累計)	増減率
HRソリューション	2,935百万円	3,258百万円	11.0%
エキスパートサービス(人材派遣) インソーシング(委託・請負)他	1,173百万円	1,959百万円	66.9%
エキスパートサービス(人材派遣)			
インソーシング(委託・請負)			
HRコンサルティング、教育・研修他	1,173百万円	1,959百万円	66.9%
プレース&サーチ(人材紹介)			
グローバルソーシング(海外人材サービス)			
アウトプレースメント(再就職支援)	796百万円	111百万円	△86.0%
アウトソーシング	965百万円	1,188百万円	23.0%
ライフソリューション パブリックソリューション シェアード	8百万円	△34百万円	—
消去又は全社	△1,905百万円	△2,028百万円	—
合計	1,038百万円	1,195百万円	15.2%

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて3,258百万円減少(4.3%減)し、72,357百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少4,747百万円、受取手形及び売掛金の増加984百万円等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べて2,821百万円減少(5.8%減)し、45,613百万円となりました。これは主に、買掛金の減少1,102百万円、長期借入金の減少1,694百万円等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べて437百万円減少(1.6%減)し、26,744百万円となりました。これは主に、四半期純損失155百万円、配当金の支払374百万円、少数株主持分の減少13百万円等によるものであります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度と比べて0.7ポイント増加して28.6%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比して4,703百万円減少し13,317百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は781百万円(前第2四半期連結累計期間2,197百万円の減少)となりました。資金増加の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益1,088百万円(同920百万円)、減価償却費1,249百万円(同1,219百万円)、未払消費税等の増加1,922百万円(同15百万円の減少)等によるものであります。資金減少の主な内訳は、売上債権の増加967百万円(同985百万円)、営業債務の減少1,753百万円(同1,018百万円)、法人税等の支払額897百万円(同1,317百万円)等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は1,800百万円(前第2四半期連結累計期間2,465百万円の減少)となりました。資金減少の主な内訳は、固定資産の取得による支出1,710百万円(同1,087百万円)、投資有価証券の取得による支出152百万円(同859百万円)、敷金保証金差入支出158百万円(同258百万円)等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は3,884百万円(前第2四半期連結累計期間312百万円の減少)となりました。資金減少の主な内訳は、長期借入金の返済2,232百万円(同1,291百万円)、配当金の支払額792百万円(同729百万円)等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想につきましては、平成26年7月11日に公表した業績予想に変更はありません。アウトブレイク(再就職支援)の受注状況など不透明な部分もありますが、足元の人材需要は堅調であり、引き続き収益拡大に努めてまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数とする方法から退職給付の支払見込期間ごとに設定された複数の割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る資産が318百万円増加し、利益剰余金が206百万円増加しております。なお、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(2) 追加情報

(連結納税制度の適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間より連結納税制度を適用しております。

(株式取得による会社等の買収)

当社は平成26年9月30日の取締役会において、パナソニック株式会社の100%子会社であるパナソニックビジネスサービス株式会社（以下、「パナソニックビジネスサービス」）の66.5%の株式を取得し、子会社化するための基本合意書を締結することを決議し、同日付で基本合意書を締結いたしました。

また、平成26年12月25日の取締役会において、基本合意書に基づき、パナソニックビジネスサービスの株式を取得し、子会社化することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結しております。

1. 株式取得の目的

パナソニックビジネスサービスは創業以来、パナソニックグループのアウトソーシング会社として、総務業務の受託やオフィスインフラのサポート等を通じて快適さ、効率、安全性を追求しながら、幅広いオフィス系業務をワンストップで受託できる体制を構築し、パナソニックグループの経営効率化とサービス向上に貢献しております。

一方、当社グループでは多様化する企業ニーズに対応するため、様々なソリューションメニューの拡大を行っており、特にインソーシング（委託・請負）、アウトソーシングなどのBPO領域においては、民間企業および官公庁・自治体等のパブリック分野の受託が順調に増加しております。また現在、対応業務の拡大にも注力しており、各業界のトップ企業と共に、付加価値の高い事業提案を推進し、加えて育成したIT人材の活用とITソリューションを併せて提案するなど、競争力の更なる向上に取り組んでおります。

この度の子会社化により、パナソニックビジネスサービスのパナソニックグループとのネットワークと長年の実績に裏打ちされた総務アウトソーシングの高いサービスレベルに加えて、当社グループの幅広い業務でのアウトソーシングの実績と人材供給力の強みを活かし、この分野における確固たるポジションが確立できるものと考えております。

2. 株式取得の相手先の名称

パナソニック株式会社

3. 買収する会社の名称、事業内容、規模

(平成26年3月期)

名称	パナソニックビジネスサービス株式会社
事業内容	総務・オフィスサポート、マニュアル・販促物作成等
純資産	2,212百万円
総資産	6,603百万円
売上高	20,350百万円
営業利益	154百万円
経常利益	122百万円
当期純利益	34百万円

(注) 上記数値は、パナソニックビジネスサービス株式会社の平成26年3月期の計算書類に基づいており、当社の会計監査人の監査証明を受けておりません。

4. 株式取得の時期

平成27年4月1日（予定）

5. 取得する株式の数、取得価額および取得後の持分比率

(1) 取得株式数 266株

(2) 取得価額 取得価額については、取得時期までに最終確定する予定です。

(3) 取得後の持分比率 66.5%

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年5月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,203	13,456
受取手形及び売掛金	24,666	25,650
その他	5,732	5,973
貸倒引当金	△56	△52
流動資産合計	48,545	45,027
固定資産		
有形固定資産	8,342	8,520
無形固定資産		
のれん	5,173	4,480
その他	4,200	4,750
無形固定資産合計	9,373	9,230
投資その他の資産		
その他	9,700	9,925
貸倒引当金	△10	△10
投資損失引当金	△335	△335
投資その他の資産合計	9,353	9,579
固定資産合計	27,069	27,330
資産合計	75,615	72,357

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年5月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,547	1,444
短期借入金	5,306	4,374
未払費用	12,884	12,531
未払法人税等	1,121	948
賞与引当金	2,268	2,490
役員賞与引当金	22	13
資産除去債務	18	11
その他	12,798	14,124
流動負債合計	36,967	35,939
固定負債		
社債	56	30
長期借入金	6,503	4,809
退職給付に係る負債	1,139	1,134
資産除去債務	835	840
その他	2,931	2,859
固定負債合計	11,467	9,674
負債合計	48,434	45,613
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	6,054	6,068
利益剰余金	13,402	13,021
自己株式	△3,827	△3,899
株主資本合計	20,629	20,190
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	82	146
為替換算調整勘定	70	180
退職給付に係る調整累計額	314	156
その他の包括利益累計額合計	467	482
少数株主持分	6,083	6,070
純資産合計	27,181	26,744
負債純資産合計	75,615	72,357

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成25年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成26年11月30日)
売上高	102,619	113,805
売上原価	83,208	91,344
売上総利益	19,410	22,461
販売費及び一般管理費	18,372	21,265
営業利益	1,038	1,195
営業外収益		
受取利息	11	13
補助金収入	25	23
不動産賃貸料	24	24
その他	57	69
営業外収益合計	118	131
営業外費用		
支払利息	83	83
コミットメントフィー	24	24
持分法による投資損失	40	40
その他	47	58
営業外費用合計	195	207
経常利益	961	1,118
特別利益		
投資有価証券売却益	0	—
関係会社株式売却益	0	—
特別利益合計	0	—
特別損失		
固定資産除売却損	28	25
減損損失	11	2
投資有価証券評価損	—	2
持分変動損失	1	—
特別損失合計	40	30
税金等調整前四半期純利益	920	1,088
法人税、住民税及び事業税	666	879
法人税等調整額	15	△28
法人税等合計	682	851
少数株主損益調整前四半期純利益	238	237
少数株主利益	263	392
四半期純損失(△)	△25	△155

四半期連結包括利益計算書
第 2 四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 6 月 1 日 至 平成25年11月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成26年 6 月 1 日 至 平成26年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	238	237
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△12	106
為替換算調整勘定	31	96
退職給付に係る調整額	—	△158
持分法適用会社に対する持分相当額	—	5
その他の包括利益合計	18	50
四半期包括利益	257	287
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△13	△155
少数株主に係る四半期包括利益	270	443

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成25年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成26年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	920	1,088
減価償却費	1,219	1,249
減損損失	11	2
のれん償却額	388	465
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	△4
賞与引当金の増減額(△は減少)	101	216
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△4	△9
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△284	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	—	△5
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	—	△289
受取利息及び受取配当金	△19	△28
支払利息	83	83
補助金収入	△25	△23
持分法による投資損益(△は益)	40	40
持分変動損益(△は益)	1	—
固定資産除売却損益(△は益)	28	25
投資有価証券売却損益(△は益)	△0	—
投資有価証券評価損益(△は益)	—	2
関係会社株式売却損益(△は益)	△0	—
売上債権の増減額(△は増加)	△985	△967
営業債務の増減額(△は減少)	△1,018	△1,753
未払消費税等の増減額(△は減少)	△15	1,922
その他	△1,298	△319
小計	△855	1,697
利息及び配当金の受取額	30	41
利息の支払額	△79	△99
補助金の受取額	25	39
法人税等の支払額	△1,317	△897
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,197	781
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△442	△820
有形固定資産の売却による収入	0	3
無形固定資産の取得による支出	△644	△890
無形固定資産の売却による収入	2	—
投資有価証券の取得による支出	△859	△152
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△355	—
貸付けによる支出	△3	△26
敷金及び保証金の差入による支出	△258	△158
敷金及び保証金の回収による収入	149	177
事業譲受による支出	△145	—
その他	92	68
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,465	△1,800

(単位：百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 6 月 1 日 至 平成25年11月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成26年 6 月 1 日 至 平成26年11月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△394
長期借入れによる収入	2,000	—
長期借入金の返済による支出	△1,291	△2,232
社債の償還による支出	—	△26
自己株式の取得による支出	—	△64
配当金の支払額	△372	△373
少数株主への配当金の支払額	△356	△419
その他	△291	△373
財務活動によるキャッシュ・フロー	△312	△3,884
現金及び現金同等物に係る換算差額	29	87
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△4,946	△4,815
現金及び現金同等物の期首残高	19,948	18,021
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	80	112
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,083	13,317

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1. 前第 2 四半期連結累計期間(自 平成25年 6 月 1 日 至 平成25年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				計	その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期 連結 損益計算書 計上額 (注) 4
	HRソリューション								
	エキスパート サービス (人材派遣)、イン ソーシング (委託・請負)他 (注) 1	アウトプレ ースメント (再就職支 援)	アウトソー シング						
売上高									
外部顧客への売上高	86,158	5,644	9,324	101,127	1,491	102,619	—	102,619	
セグメント間の内部 売上高又は振替高	323	0	112	436	1,056	1,492	△1,492	—	
計	86,482	5,644	9,436	101,563	2,547	104,111	△1,492	102,619	
セグメント利益	1,173	796	965	2,935	8	2,943	△1,905	1,038	

(注) 1 「エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)他」には、エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)、HRコンサルティング他、プレース&サーチ(人材紹介)、グローバルソーシング(海外人材サービス)の各事業を含んでおります。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ライフソリューション、パブリックソリューション、シェアードを含んでおります。

3 セグメント利益の調整額△1,905百万円には、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用1,908百万円が含まれております。全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用です。

4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 当第2四半期連結累計期間(自平成26年6月1日至平成26年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				計	その他 (注)2	合計	調整額 (注)3	四半期 連結 損益計算書 計上額 (注)4
	HRソリューション								
	エキスパートサービス (人材派遣)、イン ソーシング (委託・請負)他 (注)1	アウトプ レー スメント (再就職支 援)	アウトソー シング						
売上高									
外部顧客への売上高	97,020	4,333	9,804	111,158	2,647	113,805	—	113,805	
セグメント間の内部 売上高又は振替高	435	—	131	566	398	964	△964	—	
計	97,455	4,333	9,935	111,724	3,045	114,770	△964	113,805	
セグメント利益又は 損失(△)	1,959	111	1,188	3,258	△34	3,224	△2,028	1,195	

(注)1 「エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)他」には、エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)、HRコンサルティング他、プレス&サーチ(人材紹介)、グローバルソーシング(海外人材サービス)の各事業を含んでおります。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ライフソリューション、パブリックソリューション、シェアードを含んでおります。

3 セグメント利益の調整額△2,028百万円には、セグメント間取引消去37百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用2,066百万円が含まれております。全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用です。

4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。